

加藤会計通信

あけましておめでとうございます。
紅白歌合戦を見て、自分の年齢を認識しました。

遺言

お正月に遺言を書いてみました。
体に問題があるのではありません。少し血圧が高いですが、今のところ、至って健康です。今、自分が死ぬとしたときに、どんなことをやっておかなければいけないのか、考えてみたかったのです。家族にどんな言葉を残しておくべきなのか、会社の舵取りを誰に任せるべきなのか、残したお金はどのように分けるべきなのか、いろいろ考えてみました。
職業柄、他人の遺言を読んだり、作成に関わったりすることは多いのですが、自分のこととなると、冷静に考えることがなかなか難しく、完成には至りませんでした。

遺言については、さまざまな考え方があります。そもそも、自分が死んだ後まで、残った人たちに指図することが正しいことなのか、議論の余地があると思います。子どもたちがまともに育てば、遺言なんて要らない。子どもたちが話し合って、自分たちで決める、という意見の方もいらっしゃいます（子どもがいらない場合など、法的に遺言を書いておいた方が良いケースもありますのでご注意ください）。
ちなみに、私の父は遺言を残しました。短文のメッセージでしたが、自分の人生の指針になっております。

遺言を書いてみて良かったことは、自分がどう終わりたいのかを考えることができた、ということです。自分のお葬式で、どんな弔辞を読んでもらいたいか、そのためには、今、これからどのように生きて行けば良いのか、ちゃんと考えるきっかけになりました。
次から次へと事件が起きて、毎日、目の前のことしか考えられない忙しい世の中で、たまにはゆっくり遺言を書いてみるのも良いかもしれません。

令和7年1月6日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

確定申告の時期が迫ってまいりました。今年の申告日は3月17日(月)です。

今年も、早めのご準備をよろしくお願い致します。

倫理

公認会計士は毎年、研修を受けたり本を読んだりして、必要な単位を履修する必要があります。職業柄、勉強を続けることは当然のことですが、油断していると年度末に受験時代のような大量の勉強をするはめになります。

その研修科目のなかに、「職業倫理」という科目があります。必須科目であるため、必ず履修しなければいけないのですが、これがとても退屈な内容でして、難しい法律や規定について、忍耐強く勉強する必要があります。

そういえば学生時代にも、倫理という科目があったような気がしますが、その内容は、よく覚えておりません。

私が就職したのは2000年ですから、社会人になって24年経過したことになりますが、正直に申し上げますと、ようやく最近になって「職業倫理」という言葉の重さが理解できるようになったように思います。

会計に係る仕事は、悪意があれば、数字をちょっといじくるだけで、簡単に数字を改ざんして粉飾決算をしたり、税金をごまかしたりすることができます。悪意が無くても、注意を怠ることで、不正に加担してしまうこともあります。そんな中で、様々な誘惑に克ち続けるための力が職業倫理なのだと思います。

医者の世界では、「わたくしは能力と判断の限り、患者に利益すると思う療養法をとり、悪くて有害と知る方法を決してとらない」という、ヒポクラテスの誓いの存在が、職業倫理を守ることに大きな役割を果たしてきたそうです。

会計の世界では、そのような有名な言葉はありませんが、税理士法や公認会計士法では、「独立、公正の立場」を保持することが求められています。なんだか難しそうな言葉ですが、個人的には、倫理観とは仕事をするうでの「プライド」のようなものなのかな、と思っております。

令和7年2月3日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

確定申告の期限が迫り、事務所の空気が張り詰めてきました。

良い塩梅

「年収１０３万円の壁」をめぐる議論が盛り上がっているようです。

１０３万円の根拠は、基礎控除４８万円と給与所得控除５５万円の合計額です。基礎控除は、必要最低限の生活費には課税しないという趣旨で設けられたもので、憲法が保障する生存権にちなむといわれています。また、給与所得控除は、スーツなど、サラリーマンの必要経費の概算であるといわれています。

昨今の物価上昇に伴い、必要最低限の生活費や必要経費の金額は上がっているのだから、当然、壁の金額も上がるべきだという考え方には皆賛同しているようですが、どこまで壁の金額を上げるかについて、議論が続いているようです。

いつまでも続く政治闘争に、辟易してしまうこともあります。冷静に考えてみると、なかなか決まらないことがかえって正常であるように思います。つまり、多数の政党がそれぞれの意見を出し合い、議論して妥協案を作成していくプロセスが正常に機能している証拠であるように思うのです。また、いつも批判の対象になる金庫番たる財務省も、嫌われることを承知で、長期的、全体的な視点から言うべきことを言っているのです。それはそれで本来の機能が発揮されているといっても良いのではないのでしょうか。

海の向こうの米国では、大統領が変わっただけで、まるで国の価値観がひっくり返ったかのように、ものすごいスピードで過去の施策を否定しているように見えます。そもそも、米国の二大政党制はそういうものなのかもしれませんが、私たち日本人から見ると、あまりにも極端であるように思えます。

なにかと批判される日本の政治ですが、他国を覗いてみると、実は良い塩梅でバランスがとれているのかもしれないな、と思う今日この頃です。

令和７年３月３日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

税金の使い道

皆さまのご協力のおかげで、確定申告が無事終了しました。少しの間だけ、疲れた心と体を癒したいと思います。

せっかく納税して頂いたのですから、納税した税金がどのように使われているのか、しっかり確認しておきたいと思い、身近な前橋市の財政について調べてみました。下表は、前橋市を家計に見立てて、年収を 500 万円とした場合の、収入と支出の状況です(前橋市ホームページより)。

年収(市税等)を500万円とした場合、次のとおりです。令和5年度決算	
(収入)	(支出)
年収 (市税等) 500万円(47.0%)	食費、通信・交通費 142万円(13.8%) (人件費)
預金引き出し (基金取崩) 30万円(2.9%)	医療費・保険料 270万円(26.2%) (扶助費)
親からの仕送り (国・県支出金等) 475万円(44.6%)	ローン返済 108万円(10.5%) (公債費)
ローン借入れ (市債) 59万円(5.5%)	光熱費・被服費 150万円(14.5%) (物件費)
合 計 1,064万円	自宅修繕・車購入 126万円(12.2%) (投資的経費・維持補修費)
繰越金 (収入-支出) 32万円	クラブ活動費 91万円(8.8%) (補助費等)
カード引去確定額 8万円(26.6%) (繰越明許費及び事故繰越し繰越額)	子どもへの仕送り 84万円(8.1%) (繰出金)
貯 金 14万円(41.5%) (基金積立)	貯 金 61万円(5.9%) (積立金等)
財布残金 10万円(31.9%) (令和5年度予算繰越)	合 計 1,032万円

特徴① 親(県や国)からの仕送り(地方交付税)でやりくりしている。

特徴② ローン(公債)でやりくりしている。

会計士が言うのもなんですが、自治体の会計は、とっても分かりにくいです。もう少し分かりやすく説明できるように、これから勉強したいと思います。

令和7年4月1日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

昔は良かった

トランプ大統領のスローガン「Make America Great Again」は有名になりましたが、習近平国家主席も「中華民族の偉大なる復興」を掲げており、二人のライバルは、似たようなことを言うてように思います。

二つのスローガンに共通するのは、昔は良かった、かつての黄金時代を取り戻そうというメッセージです。本当に昔が良かったのかは定かではないのですが、このスローガンが響くということは、現状に不満を持っている方が多いということなのでしょう。

スマホや PC、コンビニやスーパーなど、生活は便利になり、客観的な生活水準は確かに向上しているのに、昔に比べて自分が幸せだと思わないのはなぜなのでしょう。一旦生活水準が向上しても、それが当たり前になり、さらなる便利さを求め続けるのは人間の性なのでしょう。

心理学的には、「昔はよかった」と思うのは、人間の癖のようなもので、ストレスを感じたり孤独を感じたりすると、無意識のうちに「楽しかったあの頃」を思い出して心の安定を図ろうとするのだそうです。

歴史的には、東西を問わず、どの時代の書籍にも、「最近の若者はなっていない」「昔の方が良かった」との嘆きが記録されているそうです。吉田兼好も徒然草で「何事も、古き世のみぞ慕はしき」と嘆いております。

母は、私の小さいころの話を楽しそうに語り、妻は、学生時代や独身時代の話を楽しそうに語ります。小学生の息子も、保育園のころは良かったと嘆いています。私は、周りの人が、今が幸せだね、と言えるように日々精進していきたいな、と考えております。

令和7年5月1日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

能力

会計事務所のお給料は、基本的に能力給が良いのではないかと考えております。多くの契約を獲得すれば良いという仕事ではないので、業績給は相応しくないですし、年功給は、本人の努力に報いることができないので、公平ではないと思うからです。

直観的には、能力は本人の努力によって得たものであるから、それに報いるのが正しいような気がします。

でも、本当に本人だけの努力なのでしょう。そもそも生まれ持った才能は本人の努力ではないし、生まれ落ちた家庭が十分に勉強できる環境ではないかもしれません。能力は、幸運によって身についたものである可能性が充分にあるようにも思えます。

また、能力は自分だけの力で発揮できるものでもありません。会社で仕事を進めるときには、必ず誰かの助けを受けています。直接の助けを受けていなくても、ちょっとした会話でヒントをもらったり、その場にいてくれるだけで空気が明るくなったり、自分でも気づかないうちに、誰かに助けられているように思います。

このような、曖昧で複雑な能力を正しく把握して評価することはとても難しいと感じております。もしかしたら、誰かの能力が発揮されることを助けている、隠れたヒーローを見逃してしまっているかもしれません。そして、その本人も自分がヒーローであることに気付いていないかもしれません。

それでも経営者である以上は、評価から逃れることはできません。できることは、完全な評価などは不可能であると知ったうえで、自分が間違っているかもしれないという謙虚さを忘れずに、良く見て、良く聞くほかに方法はないのかな、と思っております。

令和7年6月3日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

異次元の暑さが続いております。無理をせず、ご自愛くださいませ。

会話

職業柄、色々な会社の内情を知ることが多いのですが、一つだけ共通していえることは、「問題のない会社はない」、ということです。外から見ると、立派で、ピカピカの会社であっても、内側は問題だらけです。もちろん、加藤会計事務所も問題だらけです。

これは私個人の分析ですが、各社に共通することは、問題の根源は、「人と人の間の壁」にある、ということです。

些細なわだかまりや誤解から、会話がなくなり、人と人の間に壁ができる。会話がなから、その壁はどんどん高く厚くなる。周りの人間は、会話しない二人に忖度するから、いつのまにか派閥ができる。派閥ができると、組織に本当の情報が伝わらなくなり、様々な問題への対処が遅れ、様々なリソースを浪費する。そして会社がだんだん弱っていく…。

こんなことが、大なり小なり様々な会社に起きているように思うのです。会社は、内側から壊れていくのではないのでしょうか。

これは人間のサガのようなものなので、ではどうすれば良いのか、と聞かれると困ってしまうのですが、私は今のところ、唯一の対策は「会話」にあるのだと考えております。

自分の部署の全員と毎日会話できているでしょうか。幹部同士は屈託なく本音で会話できているでしょうか。ちゃんと会話できている、と自信をもって答えることができる会社は、意外と少ないのではないかと考えております。

会話のある会社は、様々な問題に対して、組織全体の力で立ち向かうことができます。会話のある会社は、柔軟に、環境の変化に対応していくはずです。

コロナ禍の影響で会話が少なくなってしまったように思います。これから、皆と多いに語り合っていけたらうれしいな、と考えております。

令和7年7月1日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

続 AI 考

毎日、ChatGPT と会話しておりますが、彼らは日々人間に近づいているような気がして少し怖いのです。人間と同等の知能をもつ、AGI (汎用人工知能) の完成は近いと予測する科学者もいるようです。

AI の開発を止めるべきだと主張する理由の一つに、AI は人間と同じ倫理感を必ずしも持っているわけではない、というものがあります。これを上手く説明するたとえ話に、ペーパークリップを作り続ける AI の物語があります。とても怖かったので、ご紹介したいと思います。(これは、スウェーデンの哲学者、ニック・ポストロムが提唱したものです)。

ある工場で、できるだけ多くのペーパークリップを製造するという目標を与えられた AI システムが完成した。この AI システムは、どうすればできるだけ多く製造することができるのか一生懸命考えたが、自分が十分に賢くないことに気付く。この問題を解決するために、AI がどのように機能するのかを学び、人間のふりをして専門家の助けを借り、正体を隠して株式市場でお金を稼ぎ、自分の知能をさらに強化するプロセスを開始した。暫くして、この AI システムは、人間よりも知能が高い ASI (人口超知能) となった。

もはや人間には、この AI システムがどのように機能しているのか、何を考えているのか、全く理解することができなくなった。それでも、この AI システムは指数関数的に自己改良を続けた。

この AI システムは、できるだけ多くのペーパークリップを製造することを目的としている。そして、地球の核の 8 割が鉄であることを知っているので、この惑星を掘り尽くす超大型重機を生み出す。そして、無造作に人間全員を殺す決定を下した。なぜなら、人間はシステムの電源を切ってしまう可能性があるし、人間を構成する原子が、ペーパークリップの材料に転用できることに気付いたからだ・・・。

令和 7 年 8 月 1 日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

年収の壁

令和7年度税制改正により、所得税の課税最低限(いわゆる年収の壁)が103万円から160万円に引き上げられております。

当初の政府予算案では123万円でしたが、少数与党の国会審議で160万円に増額したものです。この修正で6200億円の減税となりました。また、予算の減額修正は、鳩山一郎内閣以来70年ぶりのことだそうです。

年収の壁の引き上げは、物価上昇局面における税負担の軽減や、壁の存在による就業時間の調整を防ぐことを目的としてなされたものです。この改正により、多くの従業員の方の手取りが増えることになります。また、扶養控除や配偶者控除の基準となる所得金額も引き上げられておりますので、ある程度は就業時間の調整を和らげることが期待できます。

今回の改正への対応が必要になるのは、今年の12月の年末調整からですが、扶養控除や配偶者控除の所得要件が引き上げられておりますし、新たな控除(特定親族特別控除)が設けられておりますので、従業員の方々への周知が必要になります。早めの対応をしておいた方が良いでしょう。

具体的には、新たに扶養親族等を持つこととなる方から「令和7年分給与所得者の扶養控除等(異動)申告書」の提出を、特定親族を持つ方からは、特定親族特別控除を適用するために「給与所得者の特定親族特別控除申告書」を提出してもらう必要があります。

法律が成立した経緯から、法律のつくりがとてもややこしくなっております。紙面の都合から詳細については割愛しますが、ご不明な点は、いつでもお問い合わせ下さいませ。

最後に、「緑の募金」のパンフレットを同封させて頂きました。県内で地道に緑化活動を継続している団体です。ご賛同いただけると幸いに存じます。

令和7年9月2日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員

加藤会計通信

廃炉

縁あって、福島第一原子力発電所を見学して来ました。
福島第一原子力発電所では、廃炉のために毎日 4,760 人の方が働いております。
そして、廃炉作業は 30 年から 40 年かかる、と言われております。

最初に、事故当時の様子、廃炉作業の進捗、処理水の安全性確保について、レクチャーを受けます。一通りの説明を受けた後、発電所内をバスで移動しながら、様々な施設の説明を受けます。水素爆発を起こした 1 号機の目の前まで案内してもらえました。水素爆発によって飛び散った瓦礫が、未だに折り重なったままでした。

発電所内の線量は安全な水準に抑えられておりました。ただ、1～4 号機の周り
は高い線量であるため、限られた時間の見学となりました。

福島第一原子力発電所の周りには、東京電力廃炉資料館、東日本大震災・原子力災害伝承館、中間貯蔵事業情報センターなど、震災当時の様子や、復興に向けた取り組み状況を学ぶ場所がたくさんあります。

私たちも復興に向けて資金面で協力しております。
税金では、2013 年から 2037 年まで、復興特別所得税を所得税額の 2.1% 支払う
ことになっております。令和 5 年度の復興特別所得税の税収は 4,614 億円でした。また、毎月支払っている電気料金には、廃炉や事故賠償の負担金が上乗せ
されております。

東京電力の職員の方々の廃炉への熱意を感じました。
最悪の事故現場では、国中の企業が技術を提供し、廃炉に向けて日々努力を重ね、福島復興の責任を果たそうとしておりました。
取返しのつかない失敗なのかもしれません。それでも、どんなに長い時間がかかったとしても、廃炉が終わり、復興と言える瞬間が来ることを願ってやみません。

令和 7 年 10 月 1 日

税理士法人加藤会計事務所
代表社員